

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 1月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000887		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホーム ふきのとう東館		
所在地	〒047-0156 小樽市桜1丁目27番57号 (電話) 0134-54-7360		
評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成21年12月24日	評価確定日	平成22年1月19日

【情報提供票より】 (平成21年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤17人, 非常勤 1人, 常勤換算13.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 15,000円
敷金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または 月額	35,000 円	

(4) 利用者の概要 (平成21年12月24日現在)

利用者人数	18名	男性 5名	女性 13名
要介護1	3	要介護2	3
要介護3	4	要介護4	6
要介護5	2	要支援2	
年齢	平均 86.1歳	最低 73歳	最高 103歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会小樽病院, 西病院, 三ツ山病院, たかむら歯科, 常見医院, 小野整形外科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の坂を上り詰めた所に、3つの建物がある。右側に3ユニットのグループホームがあり、真ん中の建物が事務所でその左側がふきのとう東館である。平成17年10月の開設で、一番新しい建物である。高台にあり左側とふきのとうの奥は別世界になっている。リビングから外を眺めると、朝里の町と銀鱗荘とその下に広がる石狩湾を俯瞰することができる。調査日は降雪の後で、不安を抱きながらの登攀であった。最近事業所内で亡くなった利用者が出て、全員で見守り・看護・介護して送ったという事で、知識と実践に自信を持って関わっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4) プライバシーの保護の視点から、リビングの誰の目にも触れるところに置かれていた個人の記録類を保管箱に移し、個人情報確保に努めた。災害時の避難訓練についても、消防署の協力を得て、事業所内で初期消火訓練と心肺蘇生法を学んだ。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 自己評価は役職者がまとめ、ミーティング方式で職員全員がそれぞれの立場役割のなかで検討されているが、評価内容の範囲が広いことから、十分に内容の理解がなされていない部分も見受けられる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 推進会議が事業所の現状報告に終わらず、個々の「ヒヤリ・ハット」の防止についても検討をし、出席者からの意見・質問・助言等を受けている。「重要事項説明書」に明記している運営推進会議の厚生地区の代表は、町内会と民生委員の2名となっているが、最近は婦人部からの出席も受けている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 事業所内には苦情箱の設置はしていないが、意見の言える利用者からはその都度職員が話を聞いている。家族からも訪問時やお便りで何うようにしている。遠くに居る家族もあり、一堂に集まって会合することは難しく実際には苦情・意見は聞こえてこない。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 町内会に加入し、イベントに参加している。近くの小学校と中学校の学芸発表会の見学に行ったり、中学生が雪明りのキャンドルを事業所の前に並べ利用者と一緒に雪明かりを楽しむ一時を過ごしている。場所的なこともあり、特に雪が降ると外出は難しく、住民として日常的な連携が望まれる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ケア理念に「少人数の中での個人の尊厳」と「地域における一市民としての当たり前の生活」が掲げられている。 来年はユニットごとに実際の活動に取り組める新しい理念を構築するように準備している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「その人を支えるケアをめざし」、普通の生活や機能の回復に向けて、日々精力的に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会や小・中学校の催しに参加している。 中学生10数名が氷のキャンドルを軒に沿って設置し雪明りを楽しみ、事業所の夏祭りには地域の人達が遊びに参加している。	○	町内の人口構成、高齢化率、独居世帯等について町内会より情報を収集し、事業所の持っている施設を地域に開放するなどより一層の地域交流を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はミーティング方式で参加しているが、時間的な余裕がないため一人一人が各項目について十分に理解するまでには至っていない。	○	職員各自が評価項目を理解するため、ある程度の評価期間を設け、全体のミーティングを行い細部のまとめから記入することを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の単なる報告や情報交換に終わらず、意見・質問を述べる場を設けている。「ヒヤリ・ハット」の事例も隠さず報告している。会議後に議事録をまとめ家族や参加者に配布している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	業務上での訪問の機会が多く、サービスの質の向上の相談も行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期刊行物「ふきのとう通信」で個別的に近況報告をしている。家族の訪問時には、利用者の担当職員（パートナー）が報告をし意見を聞き、常に話しやすい雰囲気作りに努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は常設していないが、訪問時に職員（パートナー）が意見・苦情を聞いている。遠方の家族には、文書・電話で行っており、これまでは運営に反映する意見は無かった。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年は職員の異動は無かった。次第に職員の支援のレベルが高くなり、利用者との共同生活が密になりつつある。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員の採用時研修は必修となっている。小樽のグループホーム協議会等の研修講座に参加し、報告会をミーティングの時にやり、全職員が共有している。内部研修も2ヶ月ごとに行っており、介護水準の向上を目指している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽のグループホーム協議会研修の場で同業者との情報の交換は行っているが、交流はこの1年行っていない。	○	サービスの質の向上には実践が大切であり、地域の同業者と積極的に交流することを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に見学や利用者と一緒におやつ時間を過ごしたり、ここでの体験から馴染める場所と本人が感じてから入所するように工夫し家族にも一緒に体験してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共同生活者として、普段通りに自分の出来ることをやり、お互いに支え合って暮らしている。人生の先輩として、アドバイスを貰うこともある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人で歩きたいという思いの利用者に対し、今まで車椅子利用であったが手引き歩行できるまでになり、一人ひとりの思いや意思がかなえられるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員がセンター方式を採用して本人・家族と話し合い、カンファレンスの中でケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年ごとに見直しをし、毎日の気づきや急変したとき、訪問看護師のアドバイスを受けたときは、随時見直している。家族にはその都度通知している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、帰省、買い物、理美容、食事外出などの付き添いを要望に応じて柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に利用者のかかりつけ医の継続を基本にしているが、遠距離であったり、事業所の提携医を選択したときは変えることもある。通院は原則的に家族が送迎するが、都合によっては職員が代行し結果については、即報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	最近、終末を迎えた利用者があり、職員・家族ともども認識を新たにした。現在100歳を越えた利用者もおり、次第に重篤化しつつあり、全員でより高い支援を目指し共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	前回個人記録がリビングに置いていて、改善の指導を受けたことから、個人の記録類を保管箱に移し情報の取り扱いについて全員に周知している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段の暮らしを大事にし、周辺の散歩や晩酌の希望にも応えているが地形的なことから、冬の散歩は無理である。映画を見たり顔なじみの美容室には職員が同行している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は専属の職員がいて、利用者は食器洗いやデザート作りを一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回と決めているが、要望があれば応えている。時には拒否する人もいるが、話題を変えながら誘っている。同性対応はしていないが、利用者の不満はない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	刺繍をする人や映画を観に行く人、又希望者と時々大型店に買い物に出かけている。水族館・朝里ダムや花見など外出行事を取り入れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い時は、事業所の前の公園に日向ぼっこに出るが、冬は近所に出かけることはできないので、車で大型店に行き買い物を兼ねて歩いている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯（20時から翌朝6時半まで）は施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常時の連絡網は周知されているが、今まで消火訓練や避難訓練はしていなく、10月に初めて消防署の指導で消火訓練と心肺蘇生術の講習を受けた。今後は職員全員の心肺蘇生術の体験を計画している。	○	避難訓練は利用者・全職員総出で行う必要があり、地形的なことも考慮し、地域の協力は不可欠なため町内会と合同で、時期(冬)や時間(夜)を設定して訓練を行うことを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と専属の調理人がいて、一人ひとりの栄養管理をしている。水分の摂取の記録を取り、おやつ提供の時にもジュースやコーヒー・紅茶など好みの提供で、水分補給の工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は南北ユニットに各1ヶ所と中央にもあり、廊下は直線で見通しがよく、行事の写真や季節に応じた壁飾りなど季節感を取り入れている。トイレは車椅子対応になっている。食堂を兼ねた居間は9人が座るとあまりスペースがなく、室内行事を楽しんだりするには少し窮屈である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、単独のヒーターが設置され、使い慣れた箆笥、テレビなど馴染みのものが置かれている。仏壇を置いている人もいる。		

 は、重点項目。